

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790101000		
法人名	医療法人 奏博会 村島医院		
事業所名	グループホーム延寿の里 <行雲>		
所在地	福島県福島市飯坂町字東堀切8		
自己評価作成日	令和2年8月17日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

村島医院と連携しており医療に関して随時相談でき、安心を提供できている。
 グループホーム延寿の里には天然の飯坂温泉を供給しており、入居者様には、身も心もリラックスできる入浴を提供できる。
 アットホームな雰囲気大切にしており、入居者様の生活スタイルに合わせ、ゆったりとした過ごし方を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.医療法人が運営している事業所であり、医院と事業所が隣接している。職員には看護師も配置され、利用者は常に適切な医療を受けられる体制になっており、利用者及び家族の安心に繋がっている。
 2.開設時より地域との連携を大切に町内会に加入し、運営推進会議には町内会長・民生委員等地域住民も委員となっており、協力関係を築いている。また、向かい側にあるホテルとは災害時の避難の際の協力体制ができています。
 3.管理者を中心に職員間のコミュニケーションが良好で、職員は何でも話せる体制となっている。全職員が利用者本位の支援に努めており、利用者は落ち着いた生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての共有できているところは弱い。	事業の運営理念は、地域密着型事業としての意義を踏まえ「利用者は地域の主役となって暮らせるように支援する」と明示され、玄関及び事務室に掲示され職員は常に目にとめられる状態にある。しかし、会議や申し送り時等で職員間で確認は行われていない。	事業所理念は、日常のサービス提供の基本となるものであり、全職員が常に共有して日常のサービスに当たることが重要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響により現在積極的な地域との関りがもてないが、入居者様も地域の一員として地域活動に参加できる機会を図っている。	”コロナ禍”の影響で地域住民との交流もできない状態であるが、地域との交流再開に向けて計画中である。事業所向かい側にあるホテルとは災害時の避難の協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の理解を呼びかけた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域住民の皆様によりグループホームの運営や避難経路、住民がどう関わっていくべきが意見や助言・検討を行っている。 コロナの影響により令和3月より開催できていない。(情報を文面・文章で送付)	運営推進委員には、町内会・民生員・包括職員等から選任されているが、コロナ禍の影響で今年度は年間3回のみ開催となっており、その後は文書で情報を共有している。今後はあらゆる機会を設けて開催できるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡は密にできていない。 昨年度より実施指導を頂いた際、ケアの取組みなど方針を伝えることができた。 今後はケアについての相談等を通し協力関係を築くようにしたい。	事業所を開設して2年目であり、市の担当者とは開設時にはいろいろ情報の交換をしてきたが、コロナ禍の現在は電話等での情報交換のみである。今後は機会あるごとに担当者と連携していくことにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会議において身体拘束委員会との検討を行うようにしている。その中で勉強会・研修会等を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は、設立時の令和元年に設置し年間を通して定期的に開催しており、全職員が意識を共有し日常のケアで実践している。日中玄関の施錠は無く職員の見守り等で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	言葉使いなどから職員には徹底している。 しかし、虐待について研修等行う機会が持てなかった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてマニュアル化はされているが、職員が学ぶ機会は持てなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては本人・家族が納得できるように十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して利用者・家族の意見が反映できる機会は乏しかった。	利用者・家族の意見の把握については、入居時に家族との懇談や電話連絡時等の機会を活用して十分話し合い把握してきたが、現在は家族からの意見は把握しきれない状態である。今後あらゆる機会を通して把握するよう努めることにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	立ち上げから1年が経過した。その中で運営についてはGH経験のある職員から意見や提案を受けることが多々あり反映できている。	事業所開設後2年目であり、経験豊富な職員を中心に意見や提案を全職員で話し合っている。出された意見等は月例の「職員会議」等で検討し、事業所運営に反映させている。また、職員の資格取得には事業所からの優遇措置もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、人間関係などには注力したが、向上心をもてる職場環境に出来ているかは乏しさを感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育てる取り組みは乏しい。 未経験の新人もシフトで重要となってしまった現状があった。今後注力したいと切に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	立ち上げから1年あまり、同業者の意見や業務内容は参考にさせてもらった。しかし、継続したネットワーク作り、勉強会の開催できる機会を保てなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規事業時には入居者の方と十分にコミュニケーションを図ることができ、困りごとを確認することが出来ていた。現在も新入居者様が不安にならないよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に家族に十分に話を聞き、要望等はききいれるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含めた対応はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係性は目指しているものの、入居者様よりみて共にする関係性を築けているかは不明である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様家族との絆は大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の影響により現在は面会制限等あるが、知人や家族との面会や外出には支援している。	”コロナ禍”のため、面会等も極力制限している中ではあるが、家族との面会では「3密」に十分留意し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性にも配慮している。同テーブル等にて調整し話しやすい環境を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の情報等を家族に発信し、随時職員でも連絡を取ることで繋がりが途切れないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時・プラン作成時など希望・要望の把握に努めている。	居室担当職員が、日常生活の中での会話や仕草などから利用者の意見や要望等を聴取し、「職員会議及びケース会議」で検討し利用者本位のサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴については入居前後に確認し、好みの生活スタイルを把握すように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前後、本人のアセスメントを十分にとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れることはできたが、他関係者から意見を取り入れることは乏しかった。	入居開始までに本人や家族の意向・要望を聴取し3か月間の介護計画を作成し、その後はモニタリングにより、通常は短期3か月・長期6か月毎の見直しで対応している。急変時には医師・看護師・計画担当及び介護職員等で検討し、実情に即した計画書に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はできている。日々の記録を基にカンファレンスで情報を共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのケアのみならず、外出での支援を他事業と連携して行うことができた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については活用できていない。把握することもとぼしかった。運営推進会議などで情報を得たいと考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携は十分に図れている。受診とは別にもすぐ健康面などの相談ができる体制ができている。	かかりつけ医の受診は本人及び家族の希望で選択でき、通院は家族同行を基本としている。併設の法人医院の受診は職員か看護職員が同行し受診している。受診結果は家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHでも看護師は配置しており、主治医を通し必要な医療の提供ができている。また、併設している医院の看護師との連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は管理者・介護支援専門員が病院と連携しており、退院の際も情報も共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては指針を設けており、本人・家族に説明できる体制を整えている。主治医を中心として方針を説明する体制ができている。	事業所では、「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を策定し、利用開始までに利用者及び家族に説明し同意書を交わしている。終末期になれば改めて家族の意向を確認し希望に沿って柔軟に対応している。看取り介護も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については連絡体制が整備されており、管理者・介護支援専門員・ユニットリーダーより適切な指示を提供できるよう体制ができている。しかし、職員一人一人の訓練については乏しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は行っている。運営推進会議を通し地域との協力体制もできている。	消防署立ち会いの総合防災訓練は年1回実施している。また、事業所独自で通報訓練・避難訓練・消火器取り扱い訓練等を実施し、職員全員が意識を共有している。非常時の備えとして懐中電灯・ガスコンロ・水等を備蓄している。	防災訓練はあらゆる災害に対応できるよう年間計画し、実施されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや、言葉使いには十分気を付けている。 人格を尊重した対応を心掛けている7.	利用者への声掛けや日常会話では、利用者の尊厳を損ねないよう対応している。トイレや入浴の誘導時には耳元で静かに声掛けをしている。個人情報の簿冊等は施錠可能なキャビネットに保管している。「延寿だより」に掲載する写真等は事前に「個人情報利用同意書」により同意を得たもののみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望にがあれば添えるように努力している。自己決定は何度も本人に確認することで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを大切にしたいが、知らず知らず職員ペースになっていることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみにも気を付けていきたいと考えている。男性職員に教育していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事についてはできる入居者様にはお願いしており、できた食事については職員も同テーブルで一緒に食事をとることを常時化している。	献立表は季節感のある食材を利用し、さらに利用者の希望を聞きながら職員が作成している。食材は職員が近隣の商店で購入している。食事の下ごしらえなどの軽作業は利用者とともに進め、楽しい食事になるよう支援している。誕生会や行事食なども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量については、定時・随時で提供できている。一人ひとりに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを徹底している。口腔内のトラブルにも訪問歯科にて対応できるよう整備している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄について失敗やおむつ軽減にいたる支援に至るには、管理等含め職員の技術力向上が必要であると感じている。	利用者個々の「排泄チェック表」を活用し利用者の仕草や経過時間等を考慮し、トイレでの自然排泄を目標に支援している。便秘対策として水分や乳酸菌も利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難とならないよう消化のよい食事提供をこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は温泉水でもあることから楽しめていただけていると感じている。個々のタイミングに合わせる事が困難であった。	事業所には浴室が2つあり、温泉が引かれている浴槽と機械浴が設置されている。利用者の状態に応じて入浴できるよう支援している。温泉を利用することで利用者は入浴を楽しんでいる。入浴出来ない利用者には、シャワー浴・足湯・清拭等に対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう就寝時にはパジャマに着替えもらい、習慣づけになるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の受診に職員が同行するように努めており治療方針、内服についても理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣向品や楽しみの提供については、映画会やカラオケ、その他レクリエーション等を提供しているが、個々の要望に合った気分転換になれているかは不明。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って施設周辺の散歩、買い物等に出かけられるよう支援している。家族にも協力を得、外出してもらっている(コロナの影響により現在はできていない)	好天時には事業所周辺の散歩を楽しんだり、買い物にも出かけていたが現在は”コロナ禍”により行動が縮小している。家族の協力ですべてを楽しんでいる利用者もいるが現在は中止している。少人数で近隣の足湯に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じてお金を所持してもらうことはある(家族にも同意を得る)使用するようなことはなかったが、要望があれば応じる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が主ではあるが、要望があれば応じる。手紙も家族からが多いが、本人に手渡しており、本人から要望があれば手紙等のやり取りの支援には応じる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、湿度調整、照明などには気を配っている。季節感については掲示物でお知らせすることが主となっている。	共用空間は机と椅子のエリアとなっており、利用者は思い思いの場所で自由にテレビを見たり、おしゃべりしたりしながらゆっくり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では食事する席はある程度決めている(絶対ではなく、入居者が迷わないよう)が基本的に自由に、好きな方と使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	完全個室であり、部屋で本人と家族が面会しプライベートを守りながら会話を楽しくすることができている。居室には好きな家具を持ち込んでもらいなじみある空間を大切にしている。	居室には介護ベット・エアコン・換気扇・クローゼットが設置している。利用者はテレビ・椅子・テーブル・位牌・小箆等を持ち込み自分好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮してできることは自身で行ってもらえるよう促している。		